

鋼 橋 技 術 研 究 会

海 外 橋 梁 技 術 研 究 部 会

設 計 技 術 研 究 分 科 会

昭 和 6 3 年 度 報 告 書

平 成 元 年 5 月

I . ま え が き

この報告書は、昭和62年度および昭和63年度における、海外橋梁技術研究部会・設計技術研究分科会の活動の成果をとりまとめた研究成果報告書である。

設計技術研究分科会は、海外橋梁技術研究部会を構成する3つの分科会の1つとして、昭和60年度より実質的活動を開始した。当分科会では、当初より2年に1度のペースで報告書を作成することとしており、昭和61年度報告書に引き続き、今回が2回目の報告書となる。これまでの4年間に亘る研究は、

(1) 海外橋梁構造の事例研究

(2) 継手に的を絞ったテーマ研究

に大別される。前半の2年間は(1)に取り組み、昭和61年度報告書に

『海外と我が国との鋼橋構造の相違』

としてとりまとめた。後半の2年には(1)を引き続き行ない、事例を増やすと同時にテーマ研究として(2)を進め、海外橋梁の設計思想を探る努力をした。

この後半の2年分がこの報告書の内容となっており、上の(1)、(2)に対応して

『海外と我が国との鋼橋構造の相違(続編)』

『鋼橋の継手(テーマ研究)』

としてとりまとめた。このうち前者は続編であるので、ぜひ昭和61年度報告書¹⁾と併せて御覧頂きたい。

1) 昭和61年度報告書は印刷の段階で残念ながら次の2点に不具合があったので、この点を勘案されたい。

- ① 全ページ見開きのはずが1ページずつずれて、全ページとも紙の裏表となっている。
- ② 見開きの左(本来は右)ページで横向きの図表のあるページの天地が逆となっている。